

〈広報〉  
第36号  
令和4年  
6月15日

# 青山小学校区 コミ協だより

Comi-Kyo-DAYORI in Aoyama elementary school district

青山小学校区  
コミュニティ  
協議会  
新潟市西区青山6-16-20  
☎025 (233) 2990

令和4年度

青山小学校区コミ協総会・区政懇談会

## 多彩なテーマで意見交換、協働の市政を…



▼西区区長 水野利数氏

▲中藤榮子会長

新型コロナウイルス感染症の拡大防止面からこの二年間開催出来なかった「青山小学校区コミュニティ協議会」の総会を、三月の役員会で三年ぶりに区政懇談会と同日実施の計画が決定しました。

三十四名で開かれました。新区長による西区ビジョン基本方針と令和四年度の西区の主な取り組みを副区長が説明しました。保安林のトイレ問題は大部分が私有地であることや、私道からのカーブミラー設置は基本的に自治会対応等実現に至らないテーマが多かったものの、地域と行政による協働の市政を進めていくことを確認しました。



## 花文字植栽 花壇づくり

初夏の日射しのなか、5月28日(土)、青山小学校区コミュニティ協議会主催「花文字植栽花壇づくり」が関屋分水左岸で127人が参加して行われました。新型コロナウイルスで一昨年は中止、昨年は縮小しての実施でした。

今年は「関屋分水通水50周年」の記念の年にあたり、「5」「0」「年」の3文字追加して、花文字を「西区(シンボルマーク)セキヤ分水50年」としました。また、これまでのシンボルマークに「越後平野・関屋分水路・信濃川」などを加え一部一新しました。

今年は、信濃川下流河川事務所、「関屋モリ上げ隊」の顔ぶれも目立ち、新しくニチニチソウ、ポーチュラカも仲間入りして3,200本を植栽しました。



続いての総会についても、密を避け、短時間での開催を目指し、委任状による出席方法や事前の総会資料配布等のコロナ対策のもと、会員も加わり三十五名で実施しました。

コロナ禍における令和三年度の事業や決算が承認され、中藤会長再任を含めて役員体制の承認に続き、令和四年度の事業計画では「ふれあいの集い」の浦山地区の実施や青山コミュニティハウス文化祭の開催予定と明るいニュースも紹介され、提案どおり承認されました。

コロナが無ければ、楽しい懇親会が開かれる流れですが、減少傾向とは言えまだまだ感染状況は安心出来ず、会場の後片付けで幕を閉じた総会でした。



# 令和四年度 自治協議会総会

## 地域イベント正常な形へ…

### 浦山地区

令和四年度の浦山地区自治協議会総会が四月二十四日開かれ、同会評議員二十二人のほか、来賓各位も含め二十八人が出席、新年度の事業計画、予算などを決め、スタートしました。

会場はコロナ感染防止対策を講じ、岩田将勝会長が開会あいさつで、閑屋分水通水五十周年の歴史事業を振り返り、分水周辺の変貌、分水土手の「セキヤ分水」の花文字植栽事業などを紹介した後、コロナウイルスの感染拡大で制約されている地域行事に触れ、二日も早いコロナ終息を強調しました。

次いで、浦山四区の秋山和実自治会長を議長に選出、議事に移り、令和三年度の事業報告、同年度の事業計画、会計予算などを審議、議決しました。

コロナ禍で中止、縮小した花文字植栽事業、ふれあいの集いなどは従来どおりの正常な形で実施する方向を確認して閉会しました。自治会長は四人が交代しました。



### 有明地区

有明地区自治協議会は、四月十五日(金)有明福祉会館で令和四年度の自治協議会総会を開催しました。コロナ感染が収束していないため、各自治会の代表者だけの出席となりました。

新年度事業は、新型コロナウイルスの影響で有明ふれあい祭り、有明ふれあいの集いを見合わせることを確認した上で、有明お茶の間「らっくり」(月一回第一水曜日)の開催と有明地区で行われるイベントのジャズフェスやお茶の間等に参加支援していくことを話し合いました。

有明自治協議会長には、引き続き打越輝郎青山西自治会長を選出しました。



### 浦山地区自治協議会 新役員

所属	氏名
浦山三区	佐藤 真士
浦山八区	石田 亨
浦山中央区	入沢 広樹
青山寮	石内 達也

### 有明地区自治協議会 新役員

所属	氏名
小針松美台	西久保 勝郎
ネオハイツ有明	山本 篤江

## うちの自治会 シリーズ 8

### 松美台 第一

### 66軒の小さな自治会

会長 田中 米三

限界集落(人口の五〇%以上が六十五歳以上) わが町内では六〇%以上です。 限界自治会です。 現在小学生六名、中学生はゼロです。 毎年総会で「会長いつまでも、元気でいて下さい」と励まされて感激しています。



▲コロナ前 避難訓練に集まって

今年で十年目、町内の温かい応援のお陰で重責を務めています。 町内の良い所は、小さいのでまとまっていることです。ごみ収集場は町内一カ所ですが、きれいです。 どこにも自慢できます。八十歳以上の女性の方、五人で頑張ってくれているからです。 町内の行事は日帰り温泉だけです。 元気なうちは会長をがんばっていくつもりです。 会計は元銀行員の女性の方をお願いし、運営を手伝ってまいります。

# 関屋分水路通水30周年記念

Sekiya-Bunsui  
50th Anniversary

# 関屋分水

# 通水50周年

民間実業家と政治家

## 先見の明



横山太平(左)と柏原正雄の胸像  
(関屋分水記念公園)



関屋分水  
河口まで  
約 1.2 km

母なる川 信濃川  
国土交通省 信濃川下流工事事務所

平成十四年一〇月

平成14年  
新潟市立東青山小学校 イラストクラブ

通水30周年記念・信濃川愛護看板

関屋分水路の発想は古く、文政年間(一八一八―一八二九)に遡る。加賀金沢から越後新潟に来て開祖した横山家、第十五代横山太平氏は早くから関屋分水の必要性を説き、分水路建設に着眼した先駆者であった。江戸時代から日本海へ直接つながっていた川は、県北の荒川と信濃川の二本、支流の川はすべて信濃川に流入し、一旦、大雨になれば暴れ川となり氾濫し、大洪水となつた。一八九六(明治二十九)年の横田切れ、一九一七(大正六)年の曾川切れは信濃川破堤の代表的な大洪水被害として記録されている。

実業家・横山太平氏の分水路建設にかけた執念ともいふべき情熱はすさまじかった。民間人ながら、県に直談判し、埒が明かないと上奏までした。各地で洪水発生が続くたび、世論の喚起に努め分水路建設を推進してきた。信濃川が最も日本海に近い関屋付近からの水路建設を検討し、一九六四(昭和三十九)年、国の直轄事業として正式決定した。

この工事は関屋競馬場跡地西側を通り、関屋に至る長さ1.8kmを開削して分水路を造る計画。工事のため必要とした土地ほか、本・付帯工事合わせて五四〇平方m、建築物は病院、商店、個人住宅など合わせて六九三戸、海面漁業補償など、買収費、補償費合わせて四十九億二百万円を要した。約八年半の歳月と総事業費百九十億円をかけて一九七二(昭和四十七)年完成し、両岸に詰めかけた地元住民から歓喜、万歳の声があがった。

関屋分水の大事業は実業家・横山太平氏の発想をあと押しし、政治的に支援した柏原正雄県議、北村一男知事ら政治家の先見性も大きかった。もし、関屋分水がなかったら、と考えてみた。一九七八(昭和五十三)年、信濃川下流が大雨に見舞われ、流域雨量は二日間で三二四mmに達し、現平成大橋付近の流量は毎秒二二五〇立方メートルを記録した。関屋分水がなかったら、新潟市全域にわたった浸水被害は甚大だったろう。

新潟市中央区の中心部を流れる信濃川。両岸には市民の憩いの場「やすらぎ堤」が続き、春光に緑が映え陽気に誘われた親子連れが散歩している。春には桜の花見で賑わい、夏には新潟祭り花火大会を安心して鑑賞できるのも関屋分水のお蔭である。

(石附七司・新潟郷土史研究会 会員・元浦山六区自治会長)



満開のツツジと  
関屋分水と日本海

## 通水50周年の関屋分水

### 水と緑の川辺の景

分水路によって同地区周辺は日本海と分水川辺の新しい景観を形成しています。遊歩道の桜並木、土手上段に林立するポプラの巨木群、分水公園のボタン色のツツジの花々自然と調和した水と緑の光景は新潟市都市景観賞を受賞しています。

分水土手を花文字で彩る花と緑の植栽事業は今年で30年、ペゴニア、サルビアなどの可憐な花々を組合せ、「セキヤ分水」の花文字をカラフルに仕上げます。今年は通水50周年を記念して「50年」を追加して植栽しました。



土手の一角に広がる分水公園には月見草を詠んだ會津八一の碑がケヤキやボタン色のツツジに囲まれて立っています。市民の恰好の憩いの空間、散歩コースとして親しまれています。

### 機能と役割

新潟市を洪水から守るため、信濃川の水量を日本海へ流すことを企図して作られた人工の川です。信濃川水門と新潟大堰（せき）で水量を調節、市街地に溢れるのを防ぐ役割をしています。1964（昭和39）年着工、1972（同47）年完成。

（3面から続く）

※この広報誌は新潟市の助成金を受けて発行しています。

## 青山コミハウスサークル紹介



### 絵手紙「かきたいな」

かいて楽しい、もらってうれしい絵手紙。毎月のテーマに沿って実物を見たまま、感じたままにかきます。かいたらすぐにポストイン。「あなたらしいいい絵ね」なんて言われるとますますやる気が出てきます。交流していると心と心がつながってきます。新入会員、初心者大歓迎。

- 月1回（第4水曜、午前10～12時）
- 指導：日本絵手紙協会公認講師・内山千津子



### ほっこりいい話

4月のある朝、小学生の通学路沿いの自宅の前にこんな張り紙がありました。こちらの方はセーフティスタッフ（小学生の見守り）の活動をされていて、「いつも小学生に元気をもらっています」と書いて下さったとのことでした。ほっこりした気持ちになり、つい写真を撮らせていただきました。（広報部）